

様式4

令和5年度 第1回大津市公設地方卸売市場運営協議会の会議結果

- 1 開催日時 令和5年9月25日（月）午後1時30分から午後3時まで
- 2 開催場所 大津市公設地方卸売市場 大会議室
- 3 出席者 17人 委員 11人（欠席2人）
事務局 6人
- 4 議事及び報告
 - (1) 会長の選出
 - (2) 大津市公設地方卸売市場事業 令和4年度の実績及び令和5年度の見通しについて
令和4年度決算及び令和5年度予算
 - (3) 経営戦略（令和5年3月策定）について

【質疑応答等】

<議事及び報告>

(1) 会長の選出

前会長の山口委員が令和5年3月末で退任したため、市場条例施行規則の規定に基づき、新たに会長を選出した。委員の互選により会長に淡路委員が選任された。

(2) 大津市公設地方卸売市場事業 令和4年度の実績及び令和5年度の見通しについて 令和4年度決算及び令和5年度予算

委員：龍谷大学で行った市場についての講義を受講した学生の反応はどのようなものであったか。市場に興味を持ち、将来は市場で働きたいと考える学生は見受けられたか。

委員：市場についての講義は、農学部の1回生全員を対象とした大規模なものである。受講時は、まだ1回生であることから就職先を市場に直結させるまでには至らないが、2回生、3回生と進むに従うにつれ様々な講義を聞き役割や意義を学んでいくことになるが、この講義をきっかけとして市場に興味を持つ学生も見受けられ、種まき効果はある。また、龍谷大学と大津市場は直線的に非常に近い距離にあるため、親近感を持っており、これからも市場と連携した講義を継続していきたい。

委員：人材不足や売手市場といわれる中で、卸売市場業界は業務開始が早朝であり、冬は寒い中での作業もあるので、学生からは選ばれし職業ではないと感じている。ただ、季節の移り変わりに応じて取扱う商品が変化していき、春夏秋冬を感じられる魅力ある職業である。インターンシップのように市場のことをたくさん知っていただき、将来の仕事を市場に結びつける学生が増えてほしい。そして、これからも龍谷大学における市場の講義を継続していただきたい。

委員：最近の学生は、二分化しており、早起きが好きな学生もたくさん居て、業務開始時間帯を早めることによって仕事を早く終えて、その後の自分の時間が欲しいという学生もいる。市場での仕事は四季折々その時の食に携わることができる。インターンシップなどを通じて実際に市場で働き、仕事の内容をお店の方から直接聞くことにより、学生に市場の魅力が伝わり、将来を考える意欲へとつながっていくことから、このような機会を積極的に設けていきたい。

小学生を対象とした夏休みの早朝イベントがあったが、この他にも大津市の小中学生は市場に見学に来られるのか。

事務局：学生の見学については、コロナ禍でしばらく途切れていたものの、今年度に入りコロナが緩和されてからは、聾唖学校からの見学があった。学校の授業時間帯での見学となると、早朝ではないことから、市場が活発に活動していない時間帯の見学となってしまいが、様々な産地から届く生産物を保管するせり場を始め、水産冷蔵庫や青果バナナ加工所の見学、また、市場を紹介したビデオの視聴なども実施し、引率の先生からは「生徒が大変喜んでいて」との感想をいただいた。なお、コロナ禍以前は、学生の市場見学は多かったものの、最近では学校のカリキュラム変更により、市場の見学を取り入れる学校が減少している。学校の授業時間中での見学は、市場の業務が終了している状況となるため、見学時に市場の動きが感じられないことが一つの減少理由となっている。この他にも安曇川高校の学生が来られるなど市外の学校の見学は多いが、本市場は大津市に位置するので市内の学生にも見学に来ていただきたい。夏休み早朝市場見学会については、小学生とその保護者も対象としていたことから、保護者も子供と一緒に来て見学し、市場の流通の仕組みを学んでいただいた。

委員：学校の授業に早朝からの市場見学を取り入れるのは難しいことから、先ほどの聾唖学校の見学にもあったように、施設見学や DVD 鑑賞など学ぶ材料を充実させていく必要があると思う。反対に、早朝の業務が活発な時間帯に見学者が多いことがきっかけとなり事故が起こってはいけない。

(3) 経営戦略（令和5年3月策定）について

委員：本市場は交通アクセス状況が良いという強みがあるが、運送業界は2024年問題を抱えており、今後は様々な課題が出てくる。強みと思っているところが弱みに変化する恐れがある。また、やり方を工夫すれば、弱みが強みへと転換できる発想へとつながるかもしれない。

強みといえば、私は「近江」という言葉の重みやブランド名に強みを感じている。

委員：2024年問題については、現在、市場の冷蔵庫改修を行っているが、商品を保管する冷蔵庫の改修だけでは対応不足で、荷卸し場や売場についても商品の適切な温度管理が必要となってくる。2024年問題と併せて産地への問題にも対応していかないといけない。2024年問題は、さらに産地への問題だけでなく、トラックドライバーの労働時間の問題など様々な問題が絡んでくる。現在、京都市場が建替えを行っていることから、京都市場で荷受けができない場合は本市場で荷受けを行う場合もある。バイパスや高速のインターチェンジから近いという点や、現在、トラック輸送は増加傾向にあることは強みとなるが、トラックドライバーが荷物を積卸す作業に多くの時間が費やされてしまうと労働超過となってしまうことから、取扱量にも影響してくるであろう。弱みを強みへと転換ということであるが、他市場においては、荷卸し場の改修を行い進歩し続けているところもある。流通形態が変わりつつある中で、本市場の条例や規則だけが変わっていないが、今後を見据えてどのように発想を切り替えていけば活性化していけるのかを、開設者と共に検討していきたい。時代に合った規定へと変革すれば、弱みが強みへと転換し市場を活性化させていけるのではないかと。

- 委員：弱みを強みに変えていくということであるが、今後2024年問題を抱える中で、滋賀県としてはCO₂削減も視野に入れながら、地場産の農産物の生産に積極的に取り組んでいかなければならないというビジョンを持っている。米の生産についてもそうであるが、それ以上に野菜が生産可能な体制作りに向けて引き続き取り組んでいく。
- 委員：いかに地元の物を取り扱い販売先へアピールしていくか検討する必要がある。また、今の時代に合った形が求められている中で、古い枠組みに捉わることがないように新しい仕組み作りに取り組んでいくことは大事である。
- 事務局：令和5年3月に経営戦略を策定した。現在、入場業者の方を対象に経営戦略に基づき、どのようなことに重点的に取り組むべきかをアンケート方式で意見聴取を行っているところである。今後は、いただいた意見の分析を行い、今年度中に運営協議会の場において入場業者の方からどのような意見があったのかを紹介していきたい。また、施設整備については多くの経費を要することとなるが、より良い市場を築いていくためにも施設整備も含めたいので、今後も引き続き入場業者の方の意見を聴きながら検討していきたい。
- 委員：経営戦略を実現させるためには、様々な組織が絡んでくるため縦割りであってはうまくいかない。古い枠組みに捉われず変えるべきところは変えて、戦略が絵に描いた餅とならないように、意見交換しながら具体的なプロセスを立てていくべきである。
- 事務局：今後、市場を活性化し、取扱高を増やしていくことが課題であるが、来年は天津市を舞台とした歴史にまつわる大河ドラマがあり、さらに、2025年に滋賀県で開催のスポーツ大会に向けて情報発信をしていく中で、大津の美味しい食材も併せてPRしていきたいと考えている。
- 委員：歴史は非常に大きな財産である。大河ドラマを一つのきっかけとして、歴史を活かした形で市場の活性化は可能であると思う。歴史に刻まれたものは一過性ではなく不動のものである。また、人々の記憶に残りやすく、理解も広がりやすい。経営戦略を具体化していく上で、このように機会を捉えながら市場活性化に向けた取り組みを検討していくべきである。

－ 以上 －